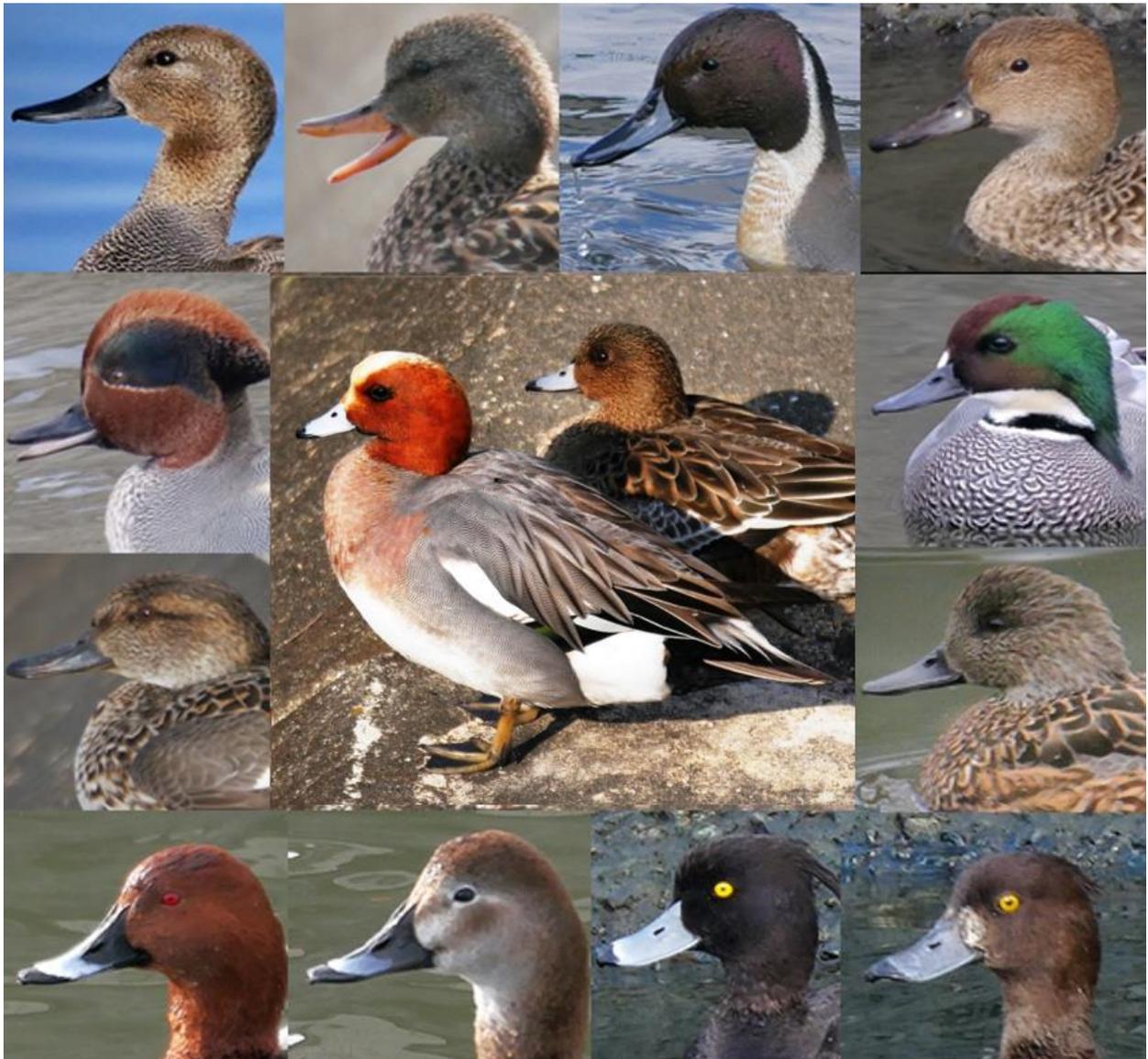


大阪府東部流域下水道事務所  
川俣水みらいセンター周辺

第二寝屋川野鳥観察ガイド



大阪府東部流域下水道事務所

2021. 3 改訂 発行

## はじめに

一級河川「第二寝屋川」は、寝屋川・恩智川の水害対策として 1969 年（竣工年）に開削された運河で、自然の岸辺の全くない 3 面コンクリート張りの都市河川です。もともと地盤が低く、河床勾配が緩やかなので、大阪湾の潮位の影響を受け、水位があがったり、さがったりします。こういった川を「感潮（かんちょう）河川」と呼びます。



川俣水みらいセンター（左）と第二寝屋川



放流口に群がる水鳥

川俣水みらいセンター（大阪府寝屋川（南部）流域下水道事業）では、主に東大阪市と八尾市、大東市、柏原市、大阪市の一部の下水を受入れて処理し、きれいな水にして第二寝屋川に放流しています。

川俣水みらいセンターからの下水処理水の放流口付近には、たくさん水鳥が集まることが知られています。特に、冬の渡り鳥であるカモの仲間が多く、放流口の周辺の水面で餌をとったり、河川内の高水敷の上で休んだりしている様子を間近に観察することができます。

どういった鳥がどれだけ生息しているのかを調べるために 2017 年度 11 月下旬から、2021 年 3 月末まで土日や祝日を除く平日のほぼ毎日（ただし 7、8 月は除く）、種ごとのカウント調査を実施しました。調査の結果、周辺で 64 種もの野鳥の飛来が確認できました。また、特に水鳥の大切な飛来地であることが明らかになってきました。

2019 年 2 月に、調査の結果をもとに第二寝屋川周辺にらす野鳥についてのガイドブックを作成しましたが、その後の調査結果を反映させて、この度、改訂版を作成しました。

このガイドブックを片手に、鳥たちの姿を楽しんでいただき、第二寝屋川環境や下水道の役割などにも思いを寄せていただければ幸いです。

### ◆観察ポイント

第二寝屋川は、「天井川」となっていて、堤防が高くて河川内の様子が見えにくいので、橋の上が観察ポイントとなります。

特に、放流口に近い新楠根大橋からの観察がおすすめです。

川の近くの楠根川緑地では春と秋には、思いがけない渡りの途中の小鳥に出会えることもあります。



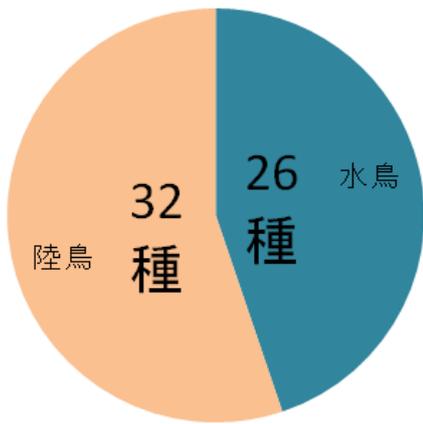
■いつ、どんな鳥が見られるか

2017年11月から2021年3月までの観察で確認できた野鳥は以下の64種となります（移入種のカワラバト（ドバト）除く）。

川俣水みらいセンター・第二寝屋川周辺で確認した野鳥 2017年11月～2021年3月（7.8月は調査なし）

No	科名	種名	区分	観察頻度	春季		夏季		秋季			冬季			日最大羽数	最大羽数確認日	備考
					3月	4月	5月	6月	9月	10月	11月	12月	1月	2月			
1	カモ	オカヨシガモ	冬鳥	◎	■	■	◆			◆	■	■	■	86	2018/3/2	ス	
2		ヨシガモ	冬鳥	△	◆	◆				◆	◆	◆	◆	2	2017/12/6他		
3		ヒドリガモ	冬鳥	◎	■	■	◆	◆	◆	◆	■	■	■	223	2020/2/14	ス	
4		アメリカヒドリ	冬鳥	×						◆	◆			1	2018/11/30他		
5		マガモ	冬鳥	△		◆	◆	◆	◆	◆	◆			2	2020/4/22他		
6		カルガモ	留鳥	○	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	20	2020/6/10	ス	
7		ハシロガモ	冬鳥	×					◆	◆	◆	◆	◆	1	2018/10/1他		
8		オナガガモ	冬鳥	◎	■	◆				◆	■	■	■	36	2020/1/30		
9		シマアジ	旅鳥	×	◆									1	2018/3/2		
10		コガモ	冬鳥	◎	■	◆	◆		◆	◆	◆	■	■	31	2021/3/9		
11		ホシハジロ	冬鳥	○	■	◆	◆		◆	◆	◆	■	■	40	2020/2/28		
12		キンクロハジロ	冬鳥	○	◆	◆			◆	◆	◆	◆	◆	4	2020/2/5		
13	カイツブリ	カイツブリ	留鳥	×								◆	◆	1	2018/1/5他		
14	ハト	キジバト	留鳥	○	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	8	2019/11/26	ス	
15	ウ	カワウ	留鳥	◎	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	209+	2020/12/9		
16	サギ	ゴイサギ	夏鳥	△			◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	2	2018/12/19他		
17		アオサギ	留鳥	◎	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	9	2018/6/12		
18		ダイサギ	留鳥	△	◆	◆			◆		◆	◆	◆	3	2019/1/18他		
19		コサギ	留鳥	◎	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	10	2020/12/14	ス	
20	クイナ	バン	留鳥	×								◆		1	2018/1/23		
21		オオバン	冬鳥	◎	■	◆			◆	◆	◆	◆	■	48	2020/2/17		
22	チドリ	ケリ	留鳥	×	◆	◆						◆		3	2019/12/12		
23		コチドリ	夏鳥	△		◆	◆							2	2019/4/1他		
24	シギ	インシギ	留鳥	○	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆	4	2019/12/12		
25	カモメ	ユリカモメ	冬鳥	○						◆		■	◆	49	2018/1/12		
26		セグロカモメ	冬鳥	○	◆					◆		◆	◆	10	2018/1/29		
27		コアジサシ	夏鳥	△			◆	◆						2	2018/6/12		
28	タカ	ハイタカ	冬鳥	×		◆						◆		1	2017/12/12他		
29		オオタカ	留鳥	×		◆								1	2018/4/20他		
30	カワセミ	カワセミ	留鳥	△	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	2	2018/11/2他	ス	
31	ハヤブサ	チョウゲンボウ	留鳥	△	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	1	2018/1/19他	ス	
32		ハヤブサ	留鳥	×								◆		1	2019/1/25		
33	モズ	モズ	留鳥	△	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	2	2018/10/1他	ス	
34	カラス	ハシボソガラス	留鳥	◎	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	5	—	ス	
35		ハシブトガラス	留鳥	○	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	18	2019/10/23	ス	
36	シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥	△	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	4	—		
37	ツバメ	ツバメ	夏鳥	○	◆	◆	◆	◆	◆					8	2018/4/27	ス	
38	ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	◎	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	55+	2019/10/16	ス	
39	ウグイス	ウグイス	留鳥	△	◆	◆			◆	◆	◆	◆	◆	2	2018/3/30		
40		ヤブサメ	夏鳥	×					◆					1	2019/10/9		
41	ムシクイ	オオムシクイ	旅鳥	×					◆					1	2018/10/17		
42		エゾムシクイ	旅鳥	×					◆					1	2018/10/5		
43	メジロ	メジロ	留鳥	○	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	4	2019/1/18他	ス	
44	セッカ	セッカ		×					◆					1	2020/9/23		
45	レンジャク	キレンジャク	冬鳥	×									◆	18	2021/2/2他		
46		ヒレンジャク	冬鳥	×	◆								◆	50±	2020/2/21		
47	ムクドリ	ムクドリ	留鳥	○	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	23	2019/12/18	ス	
48	ヒタキ	シロハラ	冬鳥	×	◆					◆				1	2019/3/22他		
49		ツグミ	冬鳥	○	◆	◆				◆	◆	◆	◆	24	2021/1/25	ス	
50		ノゴマ	旅鳥	×						◆				1	2019/10/1		
51		ジョウビタキ	冬鳥	○	◆				◆	◆	◆	◆	◆	3	2018/11/1他	ス	
52		ノビタキ	旅鳥	×					◆					1	2020/9/30		
53		インヒヨドリ	留鳥	○	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	3	2018/10/17	ス	
54		エゾビタキ	旅鳥	×					◆					1	2020/9/30	ス	
55		コサメビタキ	夏鳥	△					◆	◆				2	2018/10/9		
56		キビタキ	夏鳥	△			◆	◆	◆					2	2019/9/11他		
57		ムギマキ	旅鳥	×					◆					1	2018/10/17		
58		オオルリ	夏鳥	×					◆					1	2019/10/2		
59	スズメ	スズメ	留鳥	◎	■	■	■	■	■	■	■	■	■	83	2019/1/29	ス	
60	セキレイ	キセキレイ	留鳥	×	◆				◆	◆	◆	◆		1	2018/11/22他	ス	
61		ハクセキレイ	留鳥	◎	■	■	■	■	■	■	■	■	■	8	2018/12/3	ス	
62	アトリ	カワラヒワ	留鳥	△	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	5	2021/3/16	ス	
63	ホオジロ	ホオジロ	留鳥	×									◆	1	2018/2/13他		
64		アオジ	冬鳥	×		◆								1	2020/4/13	ス	
65	ハト(移入種)	カワラバト(ドバト)	留鳥	◎	■	■	■	■	■	■	■	■	■	60+	—	ス	
月別の確認種数					39	37	28	22	28	41	38	41	37	38			

※観察頻度欄の記号凡例 ◎ほぼ毎回見られる ○よく見られる △時々見られる ×まれに見られる  
備考欄のスは川俣スカイランドでも記録された鳥

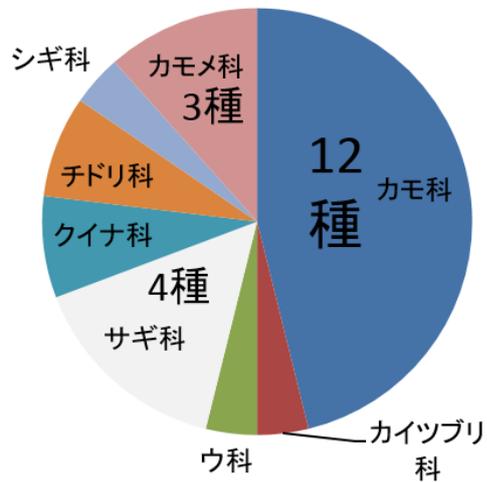


観察できた 64 種の陸鳥・水鳥構成比  
(移入種のカワラバト(ドバト)を除く)

陸鳥 (38種)

科名	種名	区分	観察頻度
ハト	キジバト	留鳥	○
タカ	ハイタカ	冬鳥	×
	オオタカ	留鳥	×
カワセミ	カワセミ	留鳥	△
ハヤブサ	チョウゲンボウ	留鳥	△
	ハヤブサ	留鳥	×
モズ	モズ	留鳥	△
カラス	ハシボソガラス	留鳥	◎
	ハシブトガラス	留鳥	○
シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥	△
ツバメ	ツバメ	夏鳥	○
ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	◎
ウグイス	ウグイス	留鳥	△
	ヤブサメ	夏鳥	×
ムシクイ	オオムシクイ	旅鳥	×
	エゾムシクイ	旅鳥	×
メジロ	メジロ	留鳥	○
セッカ	セッカ		×
レンジャク	キレンジャク	冬鳥	×
	ヒレンジャク	冬鳥	×
ムクドリ	ムクドリ	留鳥	○
ヒタキ	シロハラ	冬鳥	×
	ツグミ	冬鳥	○
	ノゴマ	旅鳥	×
	ジョウビタキ	冬鳥	○
	ノビタキ	旅鳥	×
	イソヒヨドリ	留鳥	○
	エゾビタキ	旅鳥	×
	コサメビタキ	夏鳥	△
	キビタキ	夏鳥	△
	ムギマキ	旅鳥	×
オオルリ	夏鳥	×	
スズメ	スズメ	留鳥	◎
セキレイ	キセキレイ	留鳥	×
	ハクセキレイ	留鳥	◎
アトリ	カワラヒワ	留鳥	△
ホオジロ	ホオジロ	留鳥	×
	アオジ	冬鳥	×
ハト(移入種)	カワラバト(ドバト)	留鳥	◎

参考



水鳥 26 種の科別構成

水鳥 (26種)

水鳥では、カモ科の鳥が最も多く 12 種が記録されている。  
次いで、サギ科の 4 種、カモメ科の 3 種となる。

科名	種名	区分	観察頻度
カモ	オカヨシガモ	冬鳥	◎
	ヨシガモ	冬鳥	△
	ヒドリガモ	冬鳥	◎
	アメリカヒドリ	冬鳥	×
	マガモ	冬鳥	△
	カルガモ	留鳥	○
	ハシビロガモ	冬鳥	×
	オナガガモ	冬鳥	◎
	シマアジ	旅鳥	×
	コガモ	冬鳥	◎
ホシハジロ	冬鳥	○	
キンクロハジロ	冬鳥	○	
カイツブリ	カイツブリ	留鳥	×
ウ	カワウ	留鳥	◎
サギ	ゴイサギ	夏鳥	△
	アオサギ	留鳥	◎
	ダイサギ	留鳥	△
クイナ	コサギ	留鳥	◎
	バン	留鳥	×
チドリ	オオバン	冬鳥	◎
	ケリ	留鳥	×
シギ	コチドリ	夏鳥	△
	イソシギ	留鳥	○
カモメ	ユリカモメ	冬鳥	○
	セグロカモメ	冬鳥	○
	コアジサシ	夏鳥	△

## 冬の使者 カモ類（カモ科の鳥）

カルガモ（留鳥）以外のカモ類は、シベリアなどで繁殖し、秋から初冬にかけて、日本には冬鳥として越冬のために飛来します。

第二寝屋川の川俣水みらいセンター周辺では200羽前後のカモが越冬しており、東大阪市内では最大の越冬場所となっています。3月半ば以降、北帰行がはじまり、4月下旬にはほとんど姿が見えなくなります。

### 水面採餌ガモ 主に水面近くで餌を採るカモの仲間

#### ヒドリガモ *Anas Penelope* 当地で一番多く見られるカモ

■全長 42～50 cm

■雄のピューンというよく響く声の特徴。雌はガッガーと濁った声で鳴く。

水面採餌ガモの中では、大阪府内に最も多く飛来する種（府内での飛来数は、約7千羽）。

当地で越冬するカモの中で最も個体数が多く、シーズンを通じ150羽前後が見られる。

これまでの日最大羽数は2020年2月14日の223羽。

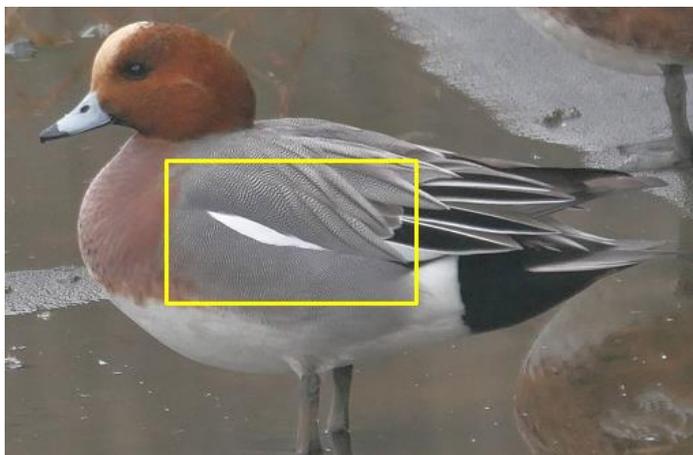


雌

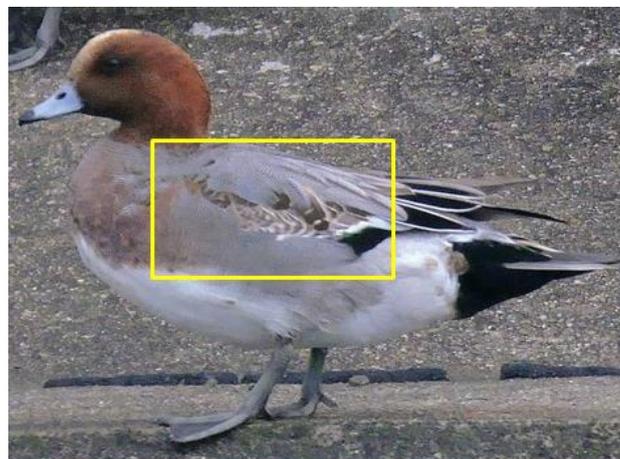


水浴び後に翼をはばたかせる雄

ヒドリガモ雄の幼鳥について 雨覆の色の違い（囲み部分）を見れば識別できる。はっきりと白いのが成鳥。白くないのがその年生まれの幼鳥。幼鳥が群れの中にもどの程度の割合でいるかを調べることで、その年の繁殖の状況などを推測することができる。



雄成鳥



雄幼鳥

## オカヨシガモ *Anas strepera* シックな色合いがおしゃれなカモ

■全長 45～57cm

■雄はゲツゲツと濁った声とピーという高い笛のような声で鳴く。

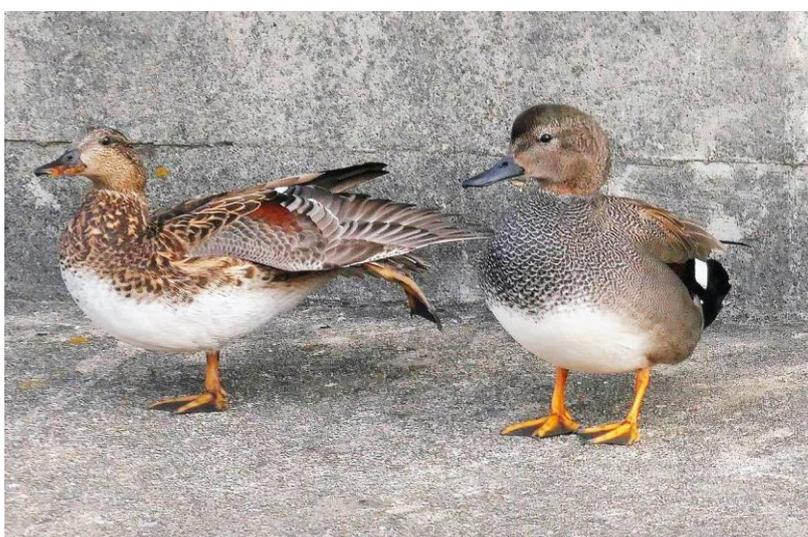
雄の生殖羽では黒い嘴と黒いお尻が目立つ。雌は嘴側面が黄色く目立つ。足は雌雄とも黄色。府内全体の飛来数は、約 700 羽。当地ではヒドリガモに次いで数が多く、30～50 羽程度が越冬。日最大羽数は 2018 年 3 月 2 日の 86 羽。

本種が 50 羽を超えるような飛来地は府内でもほとんどない。第二寝屋川のこのエリアが、恩智川治水緑地の池と並び東部大阪地区での最大級の渡来地となっている。

放流口のコンクリートの隙間にまで頭から入って行き、しばらくして流れに乗って出てきて、又奥に入るといことを繰り返し、餌をとっている様子がよく観察できた。



雌（手前）と雄（奥）



伸びをする雌（左）と雄（右）



放流口の奥まで入って餌を採るオカヨシガモの群れ 左手前の 1 羽はヒドリガモの雄

### ●カモたちは何を食べているのか

下水処理場の放流口に集まるカモたちは水中の植物プランクトンや藻類やユスリカの幼虫（アカムシ）などを食べていると考えられます。処理水が川の水より温かい（冬期でも 17℃程度）ことで藻類などが増殖し、食べ物が豊富にあると考えられます。

## オナガガモ *Anas acuta* シックでダンディな色合い、長い尾が格好いいカモ

■全長 51～76 cm

■水面採餌ガモの中で、体が最も細長く見え、シルエットだけでも種の判別ができる。河川やため池などに飛来し、長い頸を水中に伸ばし、逆立ちした格好で採餌する姿がよく見られる。大阪府のガンカモ類生息調査では、例年 1500 羽前後が記録されている。

雄はイーティ、イーティと鳴く。

当地では、2017 年度の冬期は 20 羽以上の群れが見られたが、2018 年度は、少なく数羽しか見られなかった。

オカヨシガモ同様、放流口のコンクリートの隙間にまで頭から入って行って餌をとっている様子がよく観察できた。日最大羽数は 2020 年 1 月 30 日の 36 羽。



雄 名前どおり長い尾が特徴



羽づくろいする雄

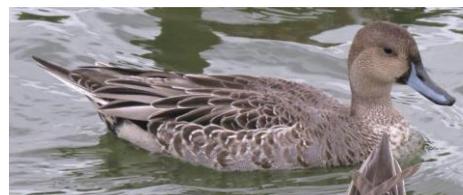


雌の飛び立ち

### ●カモ類の羽色の変化

真冬の水辺で見かけるカモは、留鳥のカルガモを除き、どの種類の雄も生殖羽に変わっていて美しい羽衣をまとっています。しかし、秋のはじめに渡ってきた頃は、雌と同じような地味な色合いをしています。

これは繁殖終了後に換羽をするからで、その時期には飛ぶことが出来ず、目立たない地味な羽(エクリプス)は、敵から身を守るために役立っていると考えられています。



オナガガモ 雄エクリプス 10月中旬

## コガモ *Anas crecca* 黄色いパンツで雌にアピール

■全長 34～38 cm

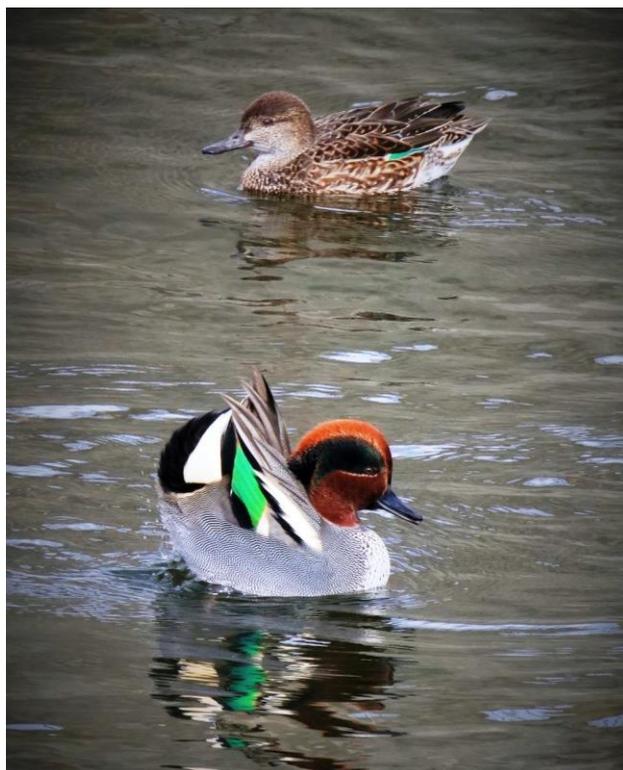
■日本で普通に見られるカモの中では、最も小さな種。他のカモに先駆けて秋9月頃に飛来し、春は逆に一番遅く4月末頃まで見られる。雄はピッピイー、ピッピツと高い声で、雌はゲーゲツゲツゲツと鳴く。雌雄とも翼鏡の緑色が目立つ。河川やため池などで見られ、水草の茂った場所を好む。ガンカモ類生息調査では、府内で例年3千羽前後が記録されている。当地では、数は多くはなく、20羽前後が越冬している。日最大羽数は2021年3月9日の31羽。



雄：栗色の頭に緑色のアイマスク。お尻の横の三角形の黄色から「黄色いパンツ」をはいたように見える。



雌：地味な模様で目立たない。



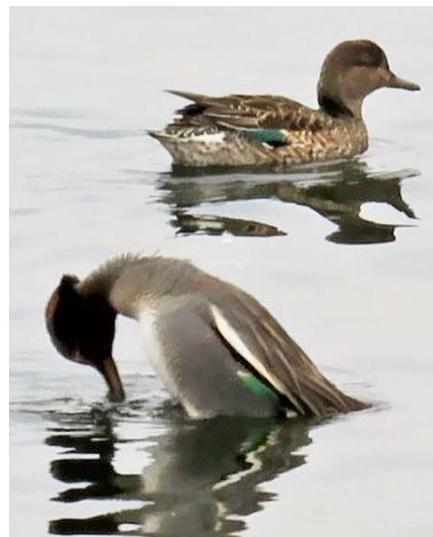
求愛のディスプレイ（そり縮み）を行う雄  
緑色の翼鏡部と黄色いお尻で雌にアピール

### ●カモ類の求愛行動

カモの仲間は、越冬中につがいをつくるので、1～2月には求愛行動を観察することができます。いろいろな行動パターンが組合わさって儀式化されており、その中には羽づくろいのしぐさなどが取り入れられています。



オカヨシガモの求愛行動 鳴きながら雌を追いかける雄(右)



コガモの求愛行動（水はね鳴き）

## ヨシガモ *Anas falcate*

■全長 46～54 cm

■河川や公園の池などにも飛来するが、古墳の堀や山間のため池など周囲が森に囲まれた池に好んで集まる傾向がある。

大阪では個体数は多くなく、カモ類生息調査では300羽前後記録される程度。

当地では、1、2羽の記録が数回ある。



雄 ナポレオンハットのような頭の形が特徴



ヨシガモ 雌

## マガモ *Anas platyrhynchos*

■全長 50-65 cm

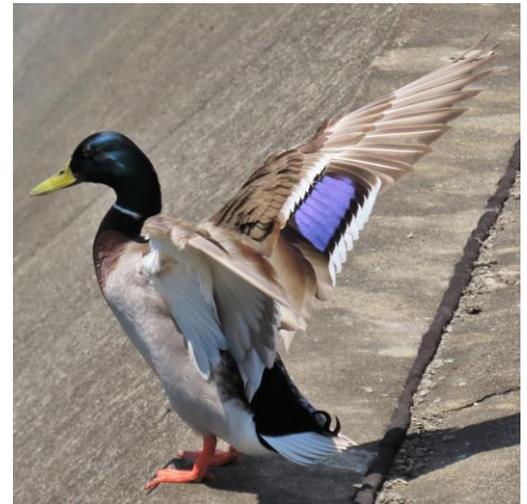
■河川や公園の池などに多く飛来する。

大阪でのカモ類生息調査では2,000羽前後記録されている。

当地での記録は少なく、2018年12月28日に雌1羽の記録がある他、2019年10月以降、翼を傷めた雌個体1羽が時々観察された。アイガモ（アヒルとマガモの交雑個体）の可能性もあるが、外見上識別が困難なことからマガモとして記録した（左写真）。



又、2020年4月～5月には雄1羽が同時に観察された。



マガモ 雄

### ●川霧とカモ

よく晴れて冷え込んだ朝には、川霧が発生します。川霧の中にカモたちのシルエットが浮かび、都会の川とは思えない幻想的な光景となります。



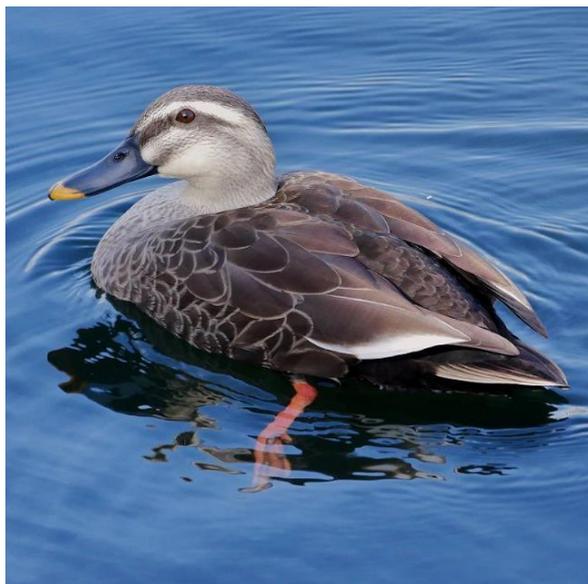
## カルガモ *Anas zonorhyncha*

■全長約 60cm 雌雄同色

■大阪では一年中見られる留鳥で、都市部の水辺でも子育てを行う。5～6月頃に水辺に巣をつくり 10～12 個も卵を産む。孵ったヒナは、すぐに巣を離れ、親鳥について歩き（泳ぎ）、餌をついばむこともできる。

川俣スカイランド内の水辺では 2010 年頃までは繁殖していたが、最近は見られなくなった。近くの長瀬川遊歩公園では一年中よく観察でき、夏には親子連れを見かけることもある。2020 年は第二寝屋川では 2 つがいの子育てが観察できた。

冬期は冬の渡りのカモの群れの中には入らず、カルガモだけが離れていることが多い。



川俣スカイランドの水辺



カルガモ親子 またここに戻って来て繁殖してほしいですね

### 第二寝屋川での親子の観察 2020 年



2020 年は、第二寝屋川で二つのカルガモ家族の子育てが観察できました。雄は子育てに参加しないので、ヒナを連れてくるのは雌親です。

たくさん卵を産む鳥は、ヒナの間にかラスやヘビなどの天敵に食べられるのが運命ですが、どちらの家族もヒナが 1 羽減ったものの、残りのヒナは順調に育ちました。

#### ■カルガモ親子①

4 月 22 日:ヒナ 8 羽(孵化後推定 2 日)を連れた♀親 1 羽(左写真)

5 月 22 日:ヒナ 1 羽減って 7 羽に

6 月 17 日:7 羽無事成長(孵化後推定 58 日 下)



#### ■カルガモ親子②

5 月 14 日:ヒナ 11 羽(孵化後推定 8 日)を連れた♀親 1 羽

5 月 21 日:ヒナ 1 羽減って 10 羽に

6 月 1 日:ヒナ 1 羽減って 9 羽に

7 月 2 日: 9 羽無事成長(孵化後推定 57 日)

## アメリカヒドリ *Anas Americana*

■全長 43～56 cm

■ヒドリガモの群に混じってごく少数が見られる。

カモ類生息調査では、府内全体で数羽記録される程度。

雄の生殖羽は、目の周囲から後頭にかけての緑色の帯が目立ち、胸から腹にかけてのブドウ色が美しい。

当地では、2018年11月30日と12月4日、5日に雄1羽が記録された。



名前のおり主に北米に生息し繁殖する鳥。東シベリアの一部の地域でも繁殖しているといわれるが、詳細は不明。

## アメリカヒドリとヒドリガモの交雑個体

ヒドリガモとアメリカヒドリは野生下でよく交雑し、交雑個体が生まれる。交雑個体には、純粋なアメリカヒドリと異なり頭や腹部に褐色部が出る。

当地でも複数の交雑個体（雄）が見られる。



## ハシビロガモ *Anas clypeata*

■全長 43～56 cm

■府内のため池に多く飛来するカモ。幅の広い大きな嘴が特徴。川で見られることは稀。当地では、2018年10月1日、2019年11月20日、25日に雌1羽の記録があるのみ。



伸びをするハシビロガモ雌

## シマアジ *Anas querquedula*

■全長 37～41 cm

■春秋に飛来する旅鳥。数は多くない。当地では、2018年3月2日に雄1羽の記録がある。



## 潜水採餌ガモ 水中に完全に潜って餌を採るカモ

■全長 42～49cm

■毎年1月に実施しているガンカモ類生息調査では、1988年頃までは府内では2000羽前後と特別多くはない種であったが、1996年以降はほぼ毎年2万羽前後を記録。2008年以降はやや減少傾向。河口や海岸部では千羽以上の大きな群れが見られる。内陸部の小さな池などにも少数が飛来する。雄は明るい赤褐色の頭と赤い虹彩、黒い胸、黒い嘴の中ほどの青灰色の帯が目立つ。日最大羽数は2020年2月28日の40羽。



雄(奥)と雌(手前)

## キンクロハジロ *Aythya fuligula* 金色の目、黒い体、翼に白い帯のある羽白鴨

■全長 40～47cm

■潜水採餌ガモの中では最も特徴がはっきりしていて初心者にも覚えやすいカモ。

河川、ため池など淡水域で普通に見られる。



雄(奥)と雌(手前)



ガンカモ類生息調査では、府内で例年4千羽前後が記録されている。雄 足には大きな水かき 当地では数は少なく、時々1～3羽程度が見られる。

## カモによく似た鳥 オオバン *Fulica atra* (クイナ科)

■全長 32～39cm 第二寝屋川では冬鳥

■全身黒くて丸々した、よく潜る鳥。カモに似ているが、嘴や足の形などが異なる。ヤンバルクイナなどと同じクイナ科の鳥で、当地では20～30羽が越冬している。

他のクイナ科の鳥と異なり足指にひだ(弁足)が付いていて泳いだり潜ったりするのが得意。日最大羽数は2020年2月17日の48羽。



カモのような水かきはなく、足指にひだが付いている(弁足)

# カモの数を数えてみよう

冬の渡り鳥のカモ類は、気象条件などによって飛来数が増減することが知られています。暖冬で雪の少ない年には、北の地方で越冬するものが多くなることから大阪などでは飛来数が減少すると考えられています。

2018年～19年の冬は暖冬で2017年～18年のシーズンに比べ、飛来数が少ないという結果となりました。

カモの数を種類ごとに数えることで、飛来時期や個体数の増減、その場所ではこういった種類のカモが優占するかなどを数字で把握することができます。

長期間にわたるカウントのデータは、渡り鳥の保護のための基礎資料となります。

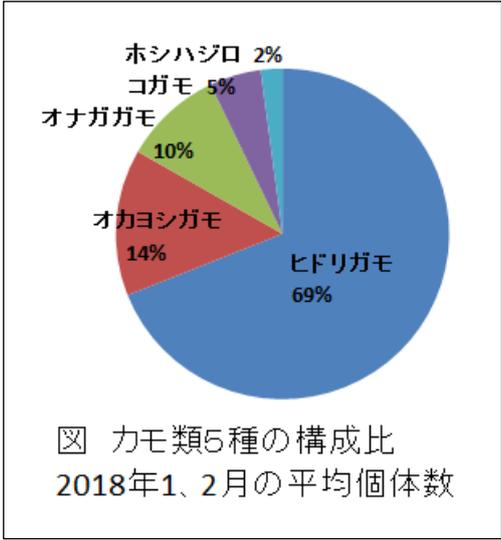


図 カモ類5種の構成比  
2018年1、2月の平均個体数

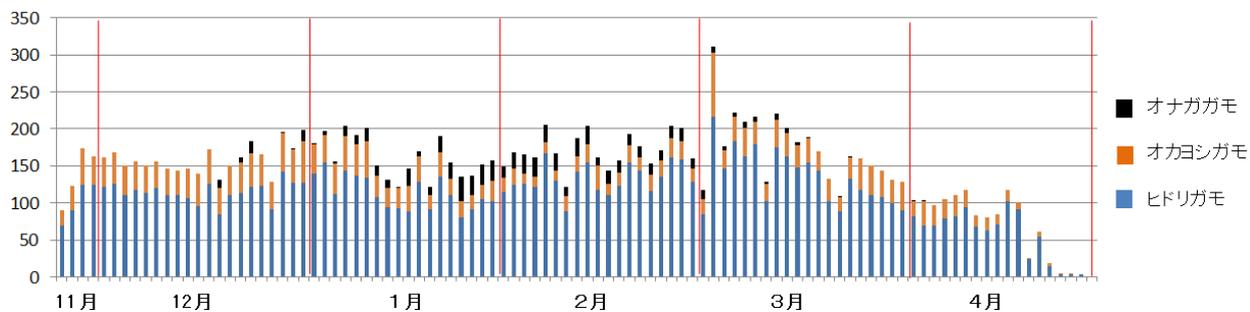


図1 第二寝屋川のカモ類3種(ヒドリガモ・オカヨシガモ・オナガガモ)の個体数の推移(2017年11月～2018年4月)

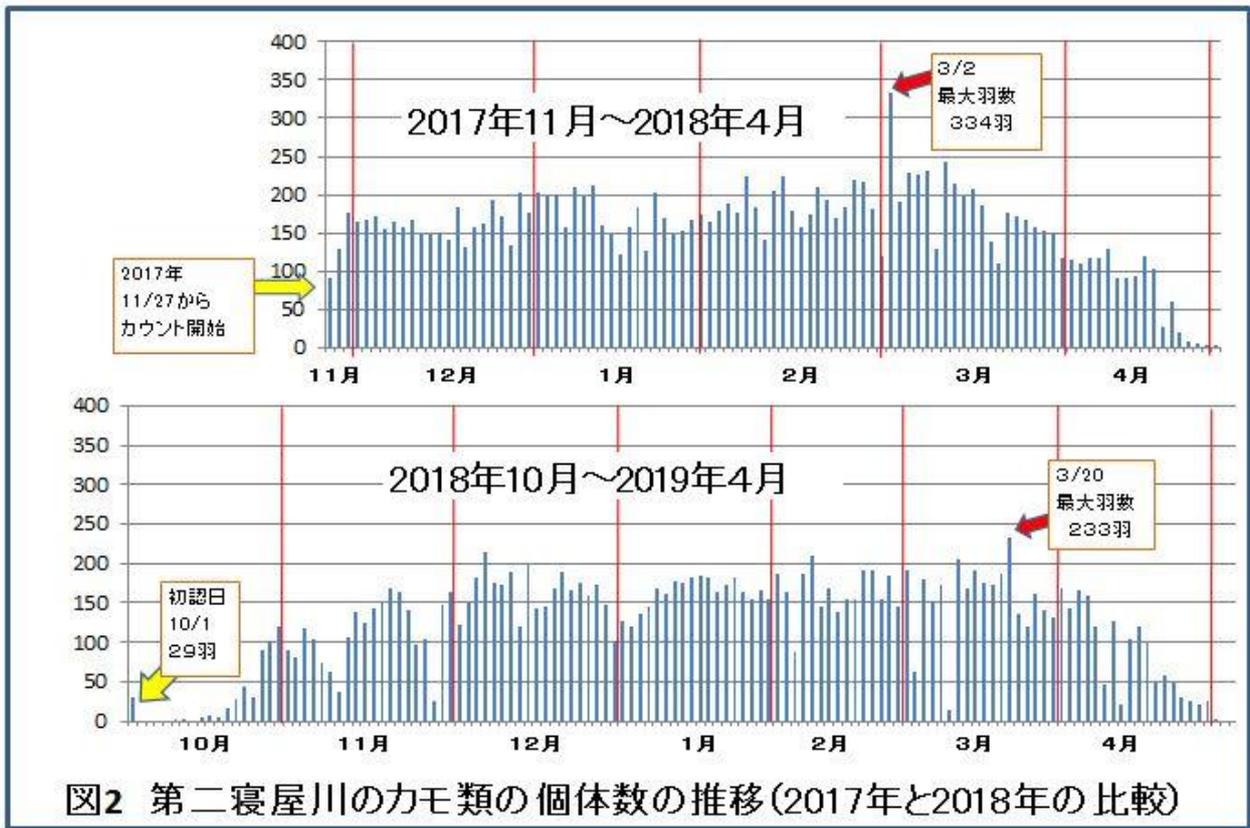


図2 第二寝屋川のカモ類の個体数の推移(2017年と2018年の比較)

■サギの仲間 魚を主食とする鳥で、第二寝屋川では以下の4種が見られる。

**アオサギ** *Ardea cinerea* (サギ科) 全長約 95cm 年中普通に見られる。

日本のサギの中で最大級。ここでは、川に飛び込むようにして魚を狙う。

**ダイサギ** *Ardea alba* (サギ科) 全長約 100cm 冬期に1~3羽見られる。

白いサギ類では最大。冬羽ではくちばしが黄色。くびを伸ばすとアオサギより大きい。

**コサギ** *Egretta garzetta* (サギ科) 全長約 60cm 年中普通に見られる。

足の指が黄色い。ここでは浅瀬がなくて体が小さいコサギには魚が採りにくいことからカワウの獲物を奪うというおもしろい行動がよく観察できる。

**ゴイサギ** *Nycticorax nycticorax* (サギ科) 全長約 60cm 夜行性のサギ

留鳥であるが、ここでは冬期に時々見られる。くびを縮め背を丸めたずんぐり体形。



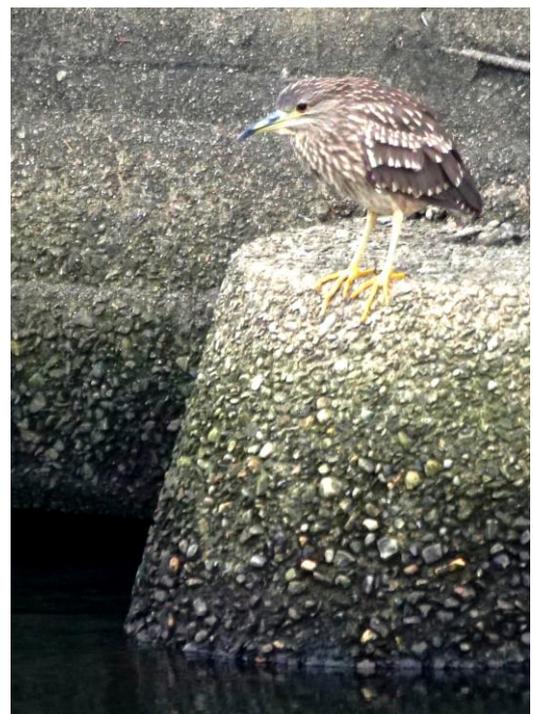
アオサギ 魚を狙い川に飛び込んだが失敗



コサギ (左) とダイサギ (右)



カワウが捕まえた魚を横取りしようとするコサギ



ゴイサギ (幼鳥) 斑点が星のように見える事からホシゴイの別名がある

## カワウ *Phalacrocorax carbo* (ウ科)

■全長 84～90 cm

■1980年代以降、全国的に増加し、特に近年は、琵琶湖でのアユなどの内水面漁業における被害が深刻となり、駆除されるまでの状況となっている。大阪府内でも増加が著しく、第二寝屋川などの都市河川でも一年中普通に見られる。

群れで潜水して魚を追い込み、漁をする様子が観察できる。

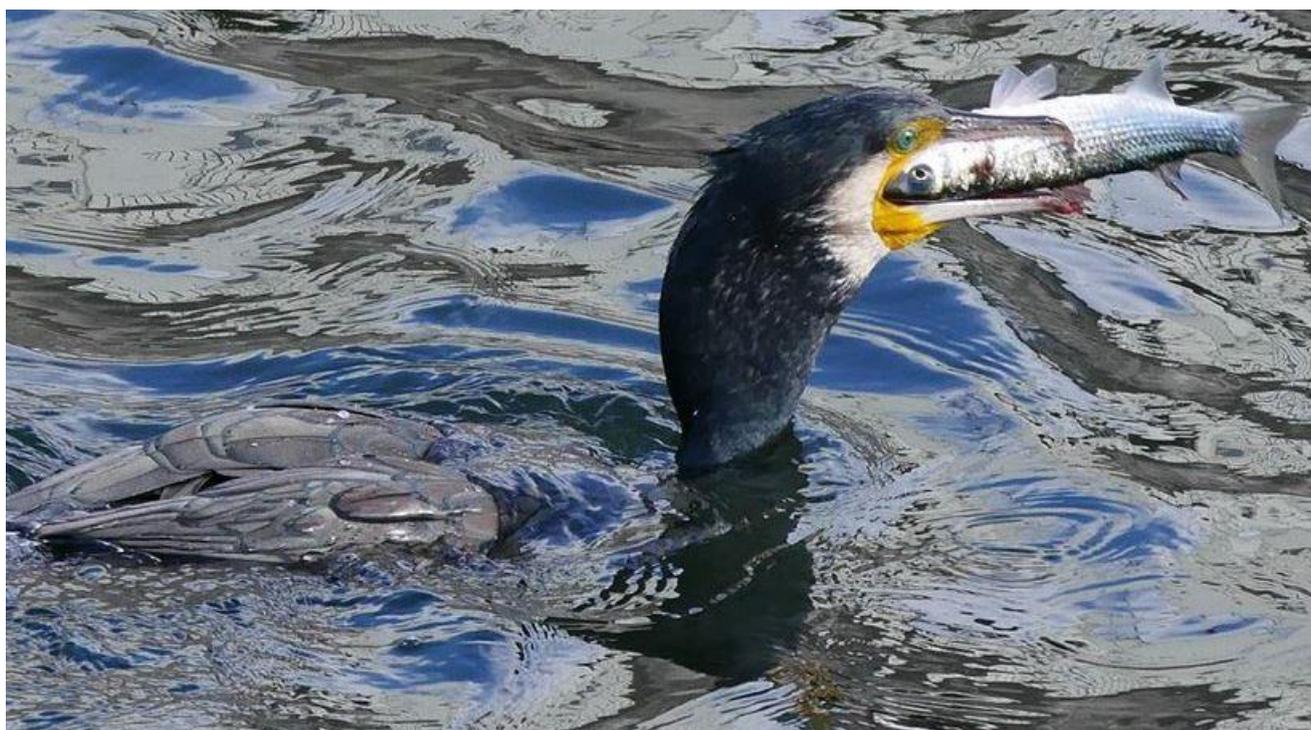
日最大個体数は2020年12月9日の209羽+



濡れた翼を乾かすために翼を大きく広げているところ



1月、繁殖期が始まり頭の白い個体が目立つ



捕らえたボラを丸呑みするカワウ

## ■カモメの仲間 冬に見られるカモメ 2 種類

**ユリカモメ** *Larus ridibundus* (カモメ科) 全長約 40cm 冬鳥  
放流口付近の水面に浮いて採餌することが多い。  
人の手からパンなどをもらうこともある。



ユリカモメの飛び立ち



橋の欄干に止まるユリカモメ 50羽近く見られることも

**セグロカモメ** *Larus argentatus* (カモメ科) 全長約 60cm 冬鳥  
大型のカモメで内陸の川にも飛来する。第二寝屋川では、2、3羽が見られる程度。



橋の欄干や電柱の上などにもよく止まる



放流口の上のポールに止まるユリカメ(左)とセグロカモメ(右)

## ■その他 水辺で見られる鳥

都市河川でも餌になる魚さえいれば、カワセミも飛来します。ただ、全てコンクリート護岸で、自然の崖などに巣をつくるカワセミには営巣できる環境はありません。



カワセミ(カワセミ科) 全長 17cm  
川に飛び込んで魚を捕える様子が時々観察できる。



コチドリ(チドリ科)全長 16cm 夏鳥として飛来  
JR操作場の砂礫地で繁殖している可能性がある。



キセキレイ(セキレイ科)留鳥 全長 20cm  
秋から春にかけて少数が見られる。川俣スカイランドのせせらぎにも飛来する。チチチチと細い声で鳴く。



カイツブリ(カイツブリ科) 全長 25~29cm  
冬期にまれに見られる。水中に潜って魚やエビなどを捕まえる。



イソシギ(シギ科) 全長 20cm  
冬期に見られる。お尻を上下に動かし忙しく水際を歩きなら小さな虫などを探す。



ハクセキレイ(セキレイ科)留鳥 全長 21cm  
河川内や周辺の路上などで普通に見られる。尾を上下に振るのがセキレイ類の特徴。左が雌、右が雄。

## ■その他の野鳥



ハシブトガラス(カラス科) 全長 57cm

留鳥 第二寝屋川周辺では1年中見られ、楠根小学校横のメタセコイアの並木の巣で、毎年繁殖している。カーカーと鳴く。



ハシボソガラス(カラス科) 全長 50cm 留鳥

第二寝屋川周辺では1年中見られ、ハシブトガラス同様、メタセコイアの並木の巣で、毎年繁殖している。ガーガーと鳴く。写真は、モクズガニを食べているところ(2020年5月27日撮影)

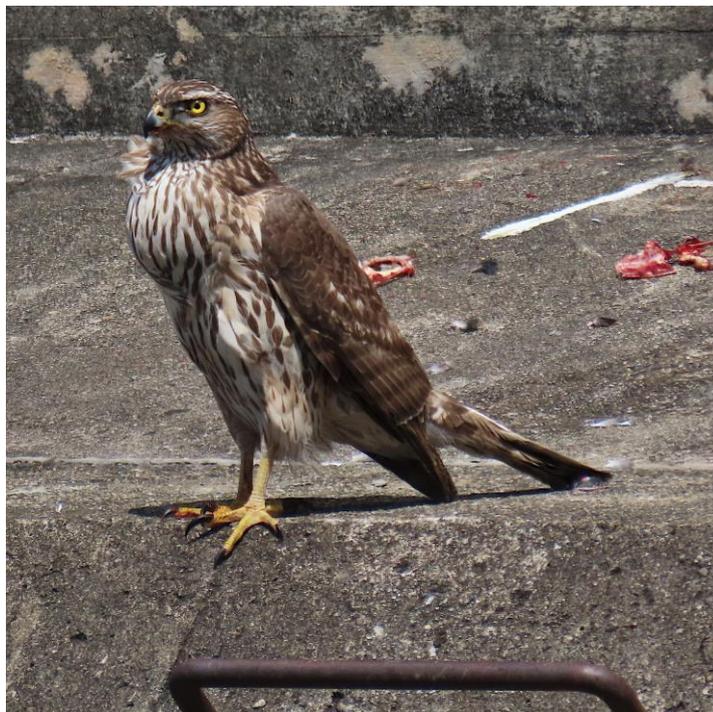


2019年のハシボソガラスとハシブトガラスの繁殖状況  
ハシボソはまだ葉が出ない時期から抱卵、ハシブトは、葉が茂ってから抱卵。巣間距離は短いが両種の目立った争いは観察されなかった。

種	営巣確認	巣立時期	巣立数
ハシボソガラス	3月19日抱卵	4月末	1羽
ハシブトガラス	4月下旬	7月1日	2羽



17  
チョウゲンボウ(ハヤブサ科) 全長33cm 留鳥  
最近、市街地でもよく観察できるようになった。川股水みらいセンターの屋上やJR操作場の電柱の上などによく止まっている。バッタなどの昆虫の他、小鳥などを食べる。



オオタカ(タカ科) 全長 50~58cm

2018年4月(成鳥上空通過)と2020年4月(若鳥)の2回の記録がある。写真は、ドバトを食べ終わったところで、そのうが大きくふくらんでいる(2020年4月10日撮影)。

## ■周辺で見られる野鳥

楠根川緑地や川俣水みらいセンターの緑地、JR 操作場の空き地などが、野鳥の生息地となっています。

特に楠根川緑地では、春秋の渡りの季節には、キビタキやオオムシクイなどいろんな渡り鳥が飛来します。



シジュウカラ(留鳥)



キビタキ(夏鳥)春秋に飛来



ヒヨドリ(留鳥) ピーヨピーヨと騒がしい声で鳴く



ムギマキ雄(旅鳥)秋に飛来



キレンジャク(冬鳥) 2~3月に飛来



コサメビタキ(夏鳥)秋によく見られる



「大阪府の鳥」モズの雌  
放流口のポールの上に止まる



イナダモモの花とスズメ  
第二寝屋川沿いにイナダモモが多く  
植えられている



桜とメジロ



ジョウビタキの雄(冬鳥)



オカヨシガモの群れ 右端の1羽はオナガガモの雌



川面に群れるカワウの大群



第二寝屋川 川俣水みらいセンターの放流口



放流口に群がる水鳥

第二寝屋川野鳥観察ガイド (改訂版)

発行：令和3年3月

大阪府東部流域下水道事務所 東大阪市川俣2丁目1-1  
TEL 06-6784-3721(代表)

企画・編集：総務課 納家(なや)